

國學院大學學術情報リポジトリ

漢文史料に基づく唐代マニ教のあり方の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 王, 南迪, Wang, Nandi メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2530

論 文 要 旨

学籍番号	203315	氏 名	王 南迪
論文題目： 漢文史料に基づく唐代マニ教のあり方の検討			
本論は、訳経や建寺などの宗教活動、及び回鶻マニ僧の政治・経済活動に関する記録を蒐集し、マニ教に関する漢文史料を調査して分析し、マニ教徒の実相及び唐代社会における彼等の地位とその影響とについて考究する。 七三二年に玄宗によって禁断されたまで、中央アジアから伝わったマニ教は、布教のために仏教との類似性を利用した。安史の乱以後、回鶻によって中原に再び持ち込まれたマニ教は回鶻の政治的・経済的利益の象徴となった。回鶻の滅亡が確認されたと、マニ教も直ちに厳しく弾圧された。 安史の乱以後のマニ教のあり方は、回鶻国内の状況と緊密に結びついていた。唐側はマニ教を一貫して回鶻の政治経済的な利益の象徴と見なしたが、実は九世紀の回鶻の国教化以前においては、ソグド商人の利益だけを表象するものであった。そのため、大暦年間のマニ教寺院は商胡が遍満した江南地域の都市に建立され、元和年間のマニ教寺院は政治的・軍事的に重要な洛陽・太原に建立された。回鶻が自分の優越的な地位によって唐でマニ教を強力に推進したという従来の説は正確ではないようである。マニ教は回鶻の支持を得て唐で全力に布教したわけではなく、回鶻が信仰した宗教として合法的に認められ、回鶻の政治的・経済的利益の象徴として中原に存在しただけであったと考える。 これまでの唐代マニ教研究に注目されてこなかった四つの問題も検討する。①七三二年の禁断以前のマニ教寺院に関する記録の問題、②七六八年に建立されたマニ教寺院は何処に建立されたか、③長安と太原のマニ教寺院は何時廃止されたのか、④唐代に中国人マニ教徒が存在したのか。 一つ目の問題について、七三二年以前のマニ教寺院に関する記録は『閩書』巻七・方域志・泉州府晉江縣一・華表山しかない。『閩書』は記録の信頼性が低いために、より多くの文献史料と出土資料が必要である。 二つ目の問題について、史料に明確な記録は確認できない。新史料の発見に期待したい。 三つ目の問題について、長安と太原のマニ教寺院が廃止された時期は八四二年四月と八四三年二月の間と推測される。さらに、八四二年八月以前に廃止された可能性もある。 四つ目の問題について、現存する史料に現れる唐代中国のマニ教徒は、例外なく回鶻人及びソグド人であった。当時の中国には地元の信者がほとんど存在しなかったと推測できる。			
キーワード（5 語） マニ教、外来宗教、回鶻、ソグド商人、唐代外交			